

WUOC2016 総括

大西 康平

1、大会成績

<スプリント>

女子(3.3 km 115m) (84人)

1位 KOSOVA Denisa (CZE) 16:28

60位 小野澤 清楓 22:19

64位 鈴木 直美 24:25

宮川 早穂 mp

男子(3.6km 120m) (112人)

1位 JONES Kristian Mark (GBR) 13:49

63位 祐谷 大輝 17:23

79位 小林 隆嗣 18:30

80位 松下 睦生 18:33

88位 堀田 遼 19:16

スプリントはお城と城壁、その外側の集落がテレインとなっていました。特に城壁が入り組んでいるところは非常に難しく通行可能なルートを瞬時に判断するのが難しい。ルートチョイスと細かい地図読みの能力が問われるテレイン。また、体力面でも登りが後半続くので最後までスピードの維持が厳しい。日本は体力面が十分でなかったのとルートチョイスでもこういったスプリントに慣れていないことが影響していたと考えられる。

<ロング>

男子(13.8km 655m)

1位 Andersson SWE 1:23:59

54位 細川 知希 1:46:38

77位 小林 隆嗣 1:57:57

90位 祐谷 大輝 2:14:30

女子(9.8km 420m)

1位 Haataja FIN 1:14:27

66位 増田 七彩 2:15:32

67位 大類 茉美 2:17:40

68位 三浦 やよい 2:24:47

鈴木 直美 mp

ロングはタフな山塊を走る体力が厳しいコース。技術的な難易度は低く日本での実力を出しやすいトレインであった。ただ、ロングを走りきる体力が全体的に不足しており日本チームとしては厳しい結果となった。細川は2年前同様上位に食い込む活躍を見せた。

<スプリントリレー>

失格

2年前同様日本チームは失格となってしまった。

フィンランドやほかにも多くのチームが失格となっており、失格となりやすいコースではあったが、前日にも失格に気を付けるようミーティングでも確認していたので、非常に残念。コースはというと日本ではなかなか経験できないような難易度の高いコースで常に気が抜けないルートチョイスの選択があり、通行禁止も多くすべてに監視員がいた。失格の要因としてはスタート直後に地図をしっかりと把握できていない状態で通過禁止エリアを通過してしまったようである。

日本でももっと世界レベルのスプリントを増やしていかないといつまでたってもスプリントレースで勝負することができないと思った。世界では中堅国もスプリントではトップと遜色ないレベルに上がりつつあるので少なくとも走力では負けないようにしないといけない。

<ミドル>

男子(5.6km 205m)

1位 SJÖBERG Oskar (SWE) 33:11

84位 細川 知希 50:10

93位 松下 睦生 53:31

97位 堀田 遼 57:08

98位 宮西 優太郎 57:31

女子(4.4km 130m)

1位 FORSGREN Lilian (SWE) 32:12

76位 増田 七彩 59:35

77位 宮川 早穂 59:40

83位 三浦 やよい 79:15

ミドルはドリーネの地形と様々な植生が混在したトレインでコントロール位置が難しく日本チームはみんなミスを連発してなかなか実力を発揮できませんでした。やはり技術力もこういう植生中心のナビゲーションが求められるような場所で練習の機会を増やすことが重

要だと思えます。

<リレー>

男子

1.Sweden A 1:39:26

24.Japan A 2:12:33

Japan B 2:42:38

女子

1.Sweden A 1:56:44

18.Japan A 3:22:04

Japan B 競技時間オーバー

リレーはミドルと同じ会場でトレインの範囲が違っており、コントロール位置の難易度も低くなっていてリレー向きでした。男子 A チームはほぼトップ比 130%で 3 人走ることができましたが、トップとの差は大きく厳しい結果でした。今後やはり 110%で走れるようなところをまずは狙っていかないといけないと思えます。3 人 110%で走れば中堅国に勝負ができるんじゃないかと思えます。女子はトップの倍近くかかっており世界とのレベルの差を実感させられました。

2、成績について

男子は選手の実力からするとコンスタントに成績が出せている。トップタイム比スプリント 110%、ミドル/ロング 120%を切れる選手を増やすのがこれからの課題。リレーではヨーロッパの強豪国と戦うには 3 人とも 105%以内。少なくとも 110%くらいのタイムが出せないと中堅国とも戦えない。女子は全体的にミスが多く選手のレベルもここ最近低下が続く。代表選手を目指す選手を増やすところから変えていかないといけないと感じた。

3、今後の選考方法について

ユニバーはなるべく選手の人数枠いっぱいを使ってでも学生を多く連れて行くことを最近の方針にはしていたが、日本代表としての自覚や選手のレベルの低下が女子選手に関しては昔に比べてより厳しくなっている。今後(2年後のフィンランド)は、人数にかかわらずある程度の実力(たとえばインカレで入賞経験ありなど)でセレクションなどでも線引きが必要になってくると思っている。でないと北欧では完走できないなどより厳しい結果が考えられる。

日本チームを応援して下さったみなさん。またJ O A合宿やセレクションなどを開催していただいたJ O Aの強化委員会の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。